

第10回土木計画学公共政策デザインコンペ作品発表・展示会 開催案内

豊かで暮らしやすい自分たちのまちや地域を造り上げていこうと意気込む学生グループから、新しい都市のあり方に関する5件の興味溢れる斬新なアイデアが寄せられました。参加者の皆様には、全国各地の学生諸君の提案に触れて頂き、地域のあり方・計画の進め方・施設設計のあり方などについて意見を交わす機会として頂きたく、標記のデザインコンペ作品の発表・展示会を開催します。多数のご来場をお待ちしております。

会場にて投票も受け付けております。ぜひご参加ください。

展示会場:ウエスト2号館 2Fホール(受付前) 投票締切:6月6日(土)16:30

■公共政策デザインコンペ関連行事

| | | |
|---------------------|-------------------------|--------------------------------------|
| 6月6日(土) 11:45~16:30 | ウエスト2号館 2F ホール | ポスター展示・一般投票受付 |
| 13:15~14:45 | 総合学習プラザ第15講義室 (第7会場) | 発表作品のプレゼンテーション |
| 6月7日(日) 12:30~13:30 | 総合学習プラザ工学部大講義室 | 表彰式・講評(ランチョンミーティング内) |
| 13:45~15:15 | 総合学習プラザ第15講義室 (第7会場) | 審査員・参加者懇談会 「公共政策デザインコンペ10年間を振り返る」 |

■コンペ開催の趣旨

土木工学は、私たちの生活に欠かせない社会基盤を支える技術です。しかし、土木工学の教育体系は、構造物や施設の機能をしっかり教えることに集中しがちです。施設の使われ方、合意形成、維持管理などを一体としてデザインすることの大切さを学生諸君が学ぶ機会は、残念ながらあまり多くありません。

そこで、トータルシステムとして社会基盤をデザインしていくことの大切さと面白さを知ってもらうため、土木計画学研究委員会では学生諸君に創造の場を提供することにしました。それが、この公共政策デザインコンペです。

★「公共政策デザイン」とは？

ここでいうデザインとは、公的な問題を解決するために必要な条件を揃えて、それらを満たしつつ、新たな視点・アイデアによって、政策を再構築する過程を指します。つまり、この公共政策デザインコンペでは、問題とその背景、その解決のための戦略、それにより得られる社会的な成果についての、明瞭な表明が求められます。

■発表作品リスト(5作品)

- A. 二層化して理想的な都市河川を作る
小澤 耀生・久保 勇登 (愛媛大学)
- B. 地域資源の活用による地方都市の活性化戦略
水野 剛志・川崎 誠登・諏訪 淑也・水牧 達志・牧田 裕介 (京都大学)
- C. “じいじ”と“ばあば”が地域再生—高齢化率50%を目指す“はまタウン”—
土屋 克貴・鴨崎 裕基・齊藤 浅里・福井 哲平・茂木 翔平・渡瀬 貴明 (日本大学)
- D. 湖都滋賀～大津市から始める観光まちづくり～
田中 宏樹・杉山 貴教・宮田 雄大・大和田 智彦・吉田 篤司
吉田 恭祐・原 拓大・杉 三四郎・濱村 正浩 (立命館大学)
- E. 地下水でまちづくり—岐阜市金華地区を対象にして—
周 鴻・近藤 貴之・藤田 隼平・川口 直秀・永井 信明・鈴木 希・井戸 聖・安藤 宏恵(岐阜大学)

■コンペの課題および概要

(1) 課題

われわれを取り巻く社会環境における問題を自ら発見し、その問題の背景を熟考し、これを含めた社会を改善するための手立て（公共政策）の提案をすること。

(2) 賞

岡田賞（1点）、北村記念賞（1点）、土木計画学委員会賞（若干数） いずれも賞金5万円

(3) 各賞の審査

ポスター（A0版2枚分のサイズ以内）並びにプレゼンテーションを総合的に評価して審査します。内容のアピールは勿論ですが、取組みの目的（何のための提案なのか）や意図が、明確に伝わるポスター作りを目指してください。

各賞の審査は、それぞれ、

岡田賞：岡田憲夫審査員（関西学院大学教授）

北村記念賞：桑原雅夫審査員（土木計画学研究委員会 委員長）

土木計画学委員会賞：土木計画学会参加者の投票に基づいて春大会代表幹事の合議で決定が担当します。審査では、以下の点を評価します。なお、審査結果に関する問い合わせはご遠慮ください。

岡田賞

以下のうち、いくつかの点において優れていること。特に、実践的な取り組みを評価する。

- ・ 今の時代を象徴する公共性・公益性の高いテーマや時代を先取りしたテーマであること。
- ・ 実際の現場・フィールドに即した提案であること。
- ・ 提案は、公共性と包括性のあるテーマであること。対象とする地域は、小さなエリアでも構わない。
- ・ 解決しようとする問題は多元的でまるごとであり、包括的なアプローチが求められるものであること。
- ・ 当事者の役割や参加・参画の方法が具体的であること。
- ・ 計画から実践に至るプロセスや、そのために必要とされる戦略が明確であること。

北村記念賞

以下のうち、いくつかの点において優れていること。特に、従来の発想にとらわれない斬新なアイデアを評価する。

- ・ 新しい時代の潮流を捉えたものであること。
- ・ 対象とする地域の特徴を踏まえたものであること。
- ・ 地域の様々なステークホルダーの立場や参画についての十分な配慮があること。
- ・ 実戦に向けて、制度提案や合意形成、コミュニケーションの方法論にも配慮がなされていること。
- ・ 提案に至る検討プロセスや体制にも工夫があること。

土木計画学委員会賞

会場で参加者が行う投票を参考にしつつ、創造性、公共性、社会性、協働性に優れ、学生という立場で土木計画を実践的に考えて、十分な調査・分析を経て具体的になされた提案を評価する。

■審査員・参加者懇談会「公共政策デザインコンペ10年間を振り返る」のご案内

大会二日目(6月7日)の13:45～15:15のセッション(第7会場)では、審査員と参加者の懇談会・講評会を行います。今回は公共政策デザインコンペが10回目の節目を迎えたことから、過去の作品の展示などを交えながら10年間の歩みを振り返り、今後の公共政策デザインコンペの発展について議論を行う予定です。

過去の公共政策デザインコンペに作品を出展された経験のある方、作品の指導にあたった経験のある方など、幅広いご参加、ご意見をお待ちしております。